

がんの生存率

5年相対生存率

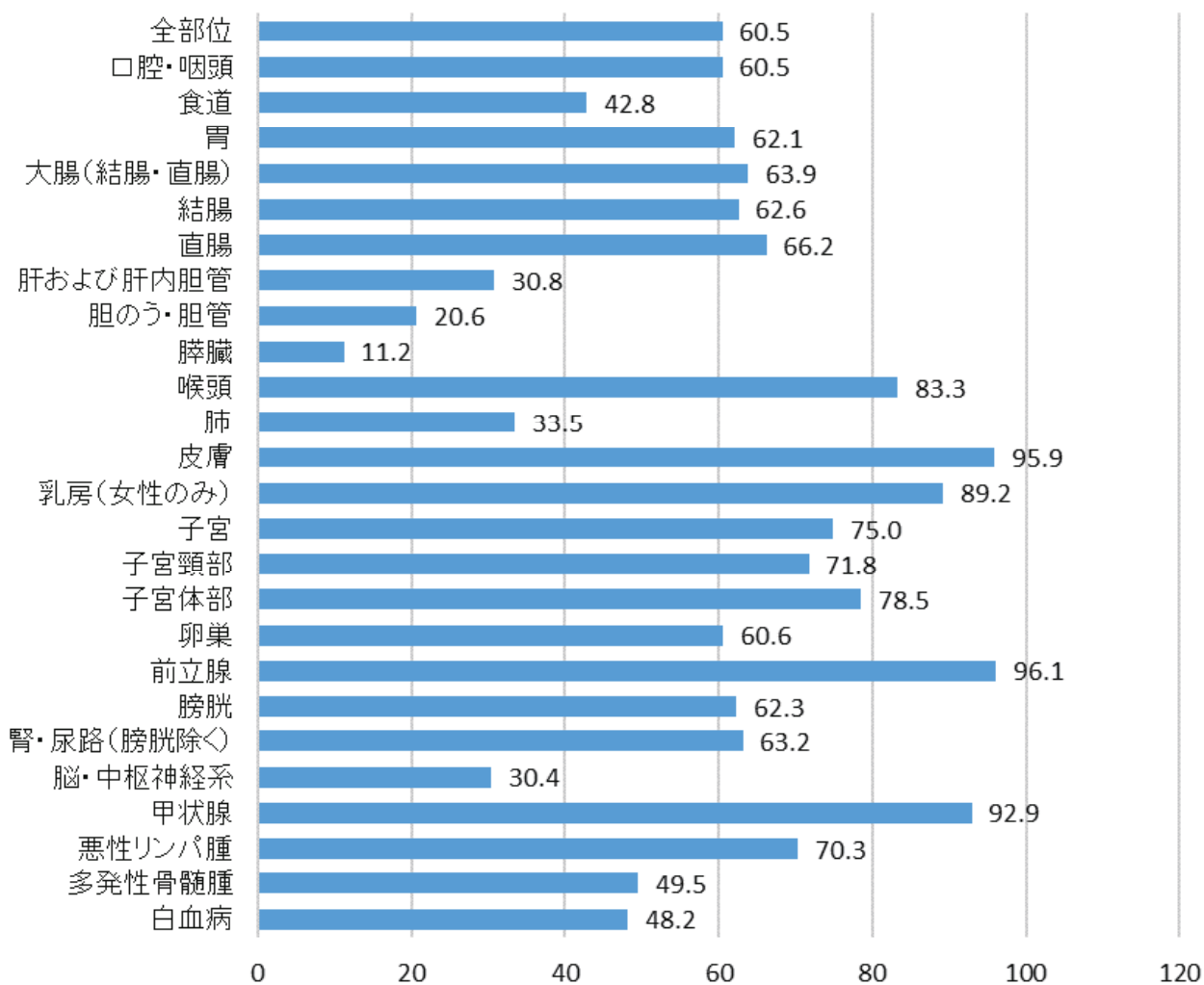
5年相対生存率の集計は、2019年の集計とは別に、本標準集計を行った時点で届出から5年間経過した罹患症例を対象として行った。

今回の5年相対生存率の算定の対象は、2014年1月1日から同年12月31日までに

診断され、届出された症例である。

部位別に見ると、前立腺、皮膚、甲状腺、乳房、喉頭、子宮体部においては比較的高く、膵臓、胆のう・胆管、脳・中枢神経系、肝および肝内胆管、肺、食道においては比較的低い。(図17)

図17 部位別5年相対生存率(%) (表12から作成)



年 次 推 移

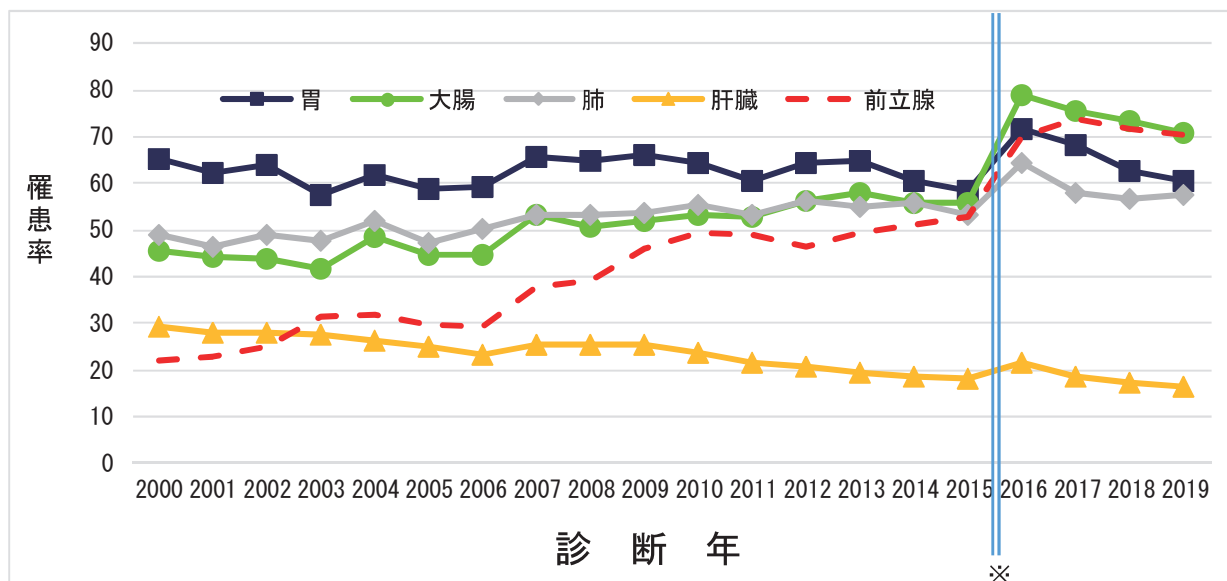
罹患の年次推移

罹患の年次推移は、2019年の集計とは別に、本集計を行った時点で2000年～2019年の年齢調整罹患率を対象として行った。2000年～2015年までの集計で部位別に見ると、男性の胃、肝臓は減少傾向、前立腺、女性の乳房、子宮は増加傾向にある(図18)。

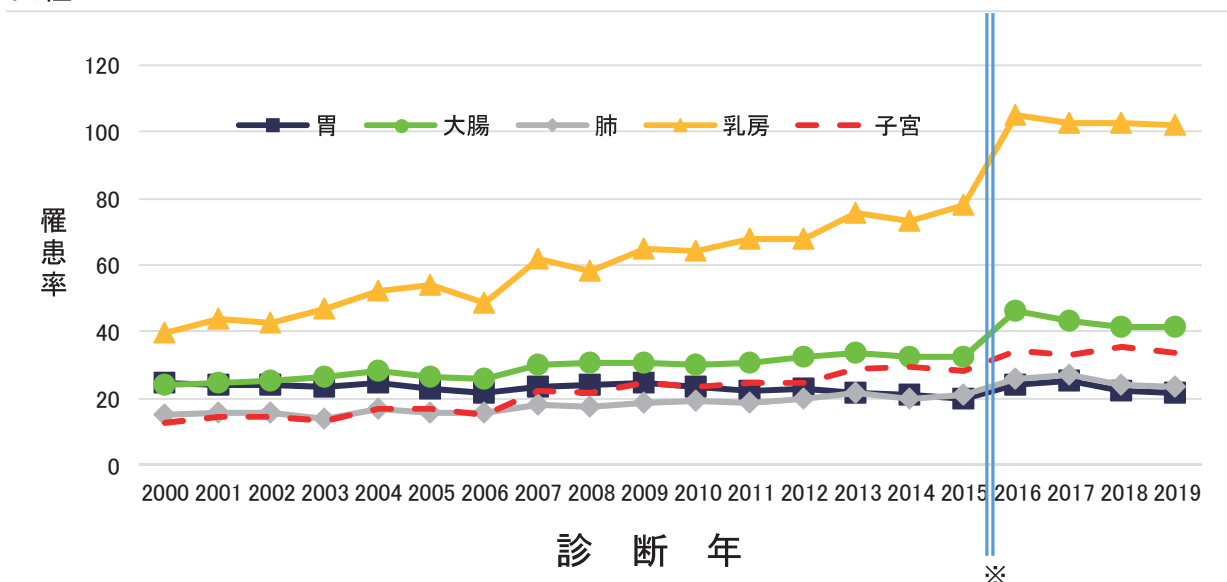
なお、2016年以降は全国がん登録が開始されたため2016年～2019年の4年間の集計では顕著な兆候は確認できない。また、2015年以前とは直接比較できない。

図18 部位別年齢調整罹患率：人口10万対

男性



女性



※は2015年と2016年の境界線を示す。2016年全国がん登録開始。2015年以前とは直接比較できない。

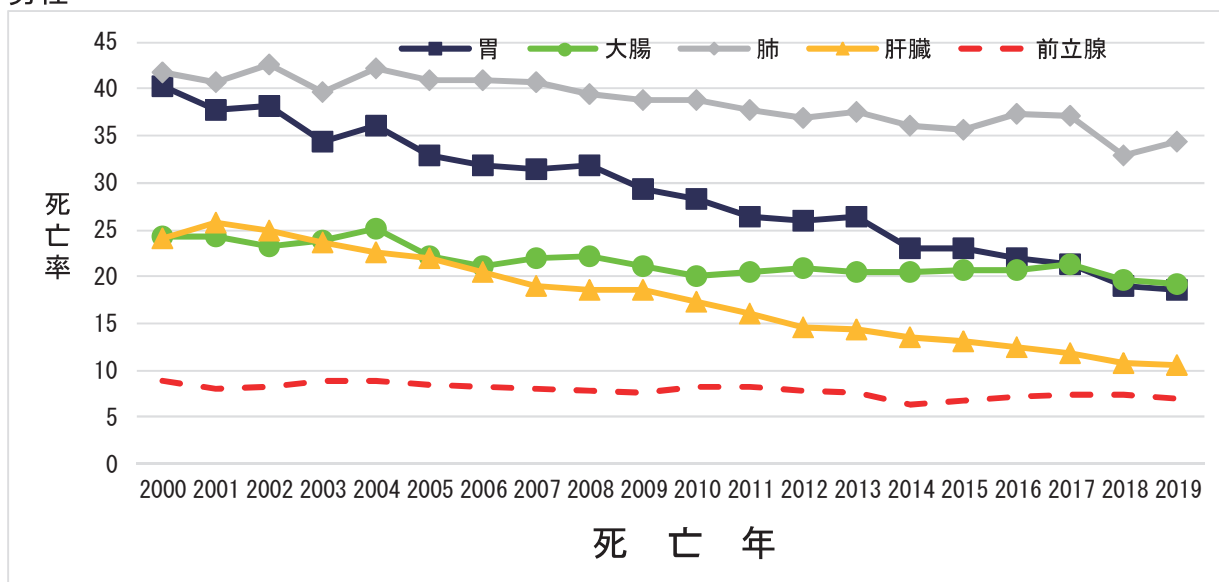
死亡の年次推移

死亡の年次推移は、2019年の集計とは別に、本標準集計を行った時点で2000年～2019年の年齢調整死亡率を対象として行った。

全体的に減少傾向にあり、男女の胃、男性の肝臓は減少傾向が大きい。一方女性の乳房は近年緩やかな増加傾向にあり、また、前立腺、子宮は横ばい傾向にある(図19)。

図19 部位別年齢調整死亡率：人口10万対

男性



女性

